

財団法人仏教伝道協会 平成24年度事業報告書

財団法人仏教伝道協会は平成20年12月の公益法人制度改革関連三法施行後、公益法人への移行準備を進めてきましたが、内閣総理大臣より平成24年3月21日付で認定書を受け、平成25年4月1日付設立登記で公益財団法人仏教伝道協会として新たな出発をする事になりました。

平成24年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日）は、公益財団法人移行前の最終年度にあたりますが、公益財団法人へ以降後の定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

ついでには、公益財団法人移行後の定款に定める事業に沿って「平成24年度事業報告」をいたします。

平成24年4月1日より平成25年3月31日に至る財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告

1. 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

(1) 「仏教聖典」各国語訳とその出版に関する事項

全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語となった。また聖典を現代に即した内容にするため、平成24年度はタイ語を改訂した。引き続き、ヒンディー語、シンハラ語等の改訂を進めている。

(2) 「仏教聖典」の普及に関する事項

①「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動は、国内のホテル、病院あわせて37軒、海外のホテル293軒より新規申し込みを受け、補充とあわせた平成24年度の寄贈冊数は、国内約15,000冊、海外約44,000冊であった。ホテル累計寄贈数は国内外あわせて64の国と地域約13,000軒・3,600,000冊に至った。

②教育や伝道教材ならびに入学、卒業の記念品として「仏教聖典」を頒布した。平成24年度より、学校への普及版『仏教聖典』の無償配布を開始し、大学、高校、保育施設を中心に106件、約46,000冊を寄贈した。また『和英対照仏教聖典』を記念品として約9,400冊販売した。

また『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』を観光寺院、学校等に約90,000冊を寄贈し、英語版『Messages from the Buddha』を作成した。

③7月に開催された、第19回東京国際ブックフェアにブースを出展し、多くの方に“仏教伝道協会の取り組み”を紹介した。

(3) 「大蔵経」の英訳編集とその刊行に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵經』の英訳刊行事業を進めている。現在、139典籍のうち 71典籍の翻訳出版を終え、部分受領16典籍を含めた 53典籍が翻訳進行中である。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国バークレー市の仏教翻訳研究センターに設置の英訳大蔵経出版委員会との協力体制のもと、英訳大蔵経として出版、平成24年度は43巻目となる『維摩經義疏』を刊行した。また、大正新脩大蔵経テキストデータベース（通称：SAT）との連携を深め、この一環として、BKアメリカのホームページで公開されている英訳大蔵経 18典籍のデータをSAT上にて対訳公開するプロジェクトを進めている。

(4) その他仏教書籍の出版、頒布に関する事項

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へカレンダー・仏教書籍を制作、頒布している。

平成24年度は、一日一訓カレンダー新シリーズ「八正道」の刊行を開始。1冊目の「正見」を刊行した。また教化教材としてカレンダー解説書—みちしるべ『正しい見方 —正見—』（執筆者 青山俊董 愛知専門尼僧堂堂長）を刊行、全国の寺院に頒布した。

その他、(株)学研とタイアップし、学校図書として人気の「ひみつシリーズ」の1冊として、学習マンガ「仏教のひみつ」を刊行し、全国の小学校・公立図書館あわせて約26,500件に寄贈した。

2. 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

(1) 外国人留学生奨学金制度に関する事項

奨学生が自国に戻り日本で学んだ仏教精神とその文化を弘く伝えて戴きたいとの願いから、日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。平成24年度は、中国人研究者・何 歆歆氏（フ・ファンファン、東京大学研究員）、アメリカ人研究者・ジェイソン・アヴィ・プロタス氏（龍谷大学研究員）に支給した。

(2) 日本人留学生奨学金制度に関する事項

平成25年度から新たな奨学金事業として日本人の学者や研究者が海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学び、将来世界のこの分野で大きく貢献してくれることを期待して、「日本人留学生奨学金制度」を設立することを決定した。平成25年度奨学生の募集は、平成24年7月13日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と推薦書を約150通送付して依頼及びホームページで一般公募を行い、平成24年12月20日、日本人留学生奨学金審査委員会を開催し、平成25年度奨学生として次の3名が選ばれた。

受給者①氏名：松原正樹

海外での所属機関：スタンフォード大学 指導教授：Carl Bielefeldt 先生
研究内容：日本仏教史における白隠伝統の再考

受給者②氏名：井内真帆

海外での所属機関：ハーバード大学 指導教授：L.W.J. van der Kuijp 先生
研究内容：カダム派に関する新出文献に対する研究／カダム派に関する寺院
データベースの構築

受給者③氏名：生野昌範

海外での所属機関：ミュンヘン大学 指導教授：Jens-Uwe Hartmann先生
研究内容：『Vinayavibhaṅga』の新出サンスクリット語写本断簡に関する研究

(3) BDKグローバル会議開催に関する事項

平成24年10月25日・26日の2日間に亘って、当仏教伝道協会と同じく「仏教精神と仏教文化とその学術振興」を目指して活動する海外協力機関（米国仏教伝道協会、ハワイ仏教伝道協会、カナダ仏教伝道協会、ヨーロッパ仏教伝道協会、イギリス仏教伝道協会、メキシコ仏教伝道協会）の代表者を集め、BDKグローバル会議を開催した。同会議では、文化・人種・宗教観がそれぞれ異なる国々で展開されている活動について発表がなされ、現地の需要にあった活動展開の成功例をもとに、「仏教聖典」の頒布活動、沼田仏教講座の運営など、今後の相互協力と活動展開について話し合われた。

(4) 仏教伝道文化賞の贈呈に関する事項

国内外を問わず、仏教精神、仏教文化、仏教学術及び布教伝道など仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、また今後のさらなる活躍を願い、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

平成24年度は、平成24年8月に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、「仏教伝道文化賞受賞者」を西來武治氏に、「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を白館戒雲氏と玄侑宗久氏に贈ることを決定し、平成24年10月12日、仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金、記念品を贈り表彰した。

各受賞者の受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞

受賞者：西來武治氏

受賞理由：電話カウンセリングの草分け的存在で、40年間に19万件もの電話相談を受け、多くの人々に精神面や健康面での相談に応える。医事評論、教育面でも活躍する。

仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

受賞者：白館戒雲氏

受賞理由：チベットの仏教や文化を伝えることに努め、若手研究者を育てる。また日本で学んだ近代仏教学の成果をインドや中国の仏教界に伝えている。

受賞者：玄侑宗久氏

受賞理由：芥川賞作家として知られており、多くの仏教関係の著作や講演で仏教の伝道に努めている。また東日本大震災では地元の仏教者として復興に尽力している。

(5) その他の助成に関する事項

①他団体等への助成

当財団の事業目的と同じ目的を持ちその活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。平成24年度は助成金審査委員会の決定のもと、主に以下の法人・団体に対して助成を実施した。

〈国内〉

東京親鸞会

財団法人 東方研究会（現 公益財団法人 中村元東方研究所）

日本印度学仏教学会

南無の会

財団法人 全国教誨師連盟（現 公益財団法人 全国教誨師連盟）

大蔵経テキストデータベース研究会

特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会

株式会社わらび座

仏教NGOネットワーク

〈海外〉

ダルマ・チャクラ・アカデミー（インド）

米国仏教大学院（沼田恵範教授基金設立事業）

米国仏教大学院（『Pacific World』刊行事業）

カリフォルニア大学バークレー校

(Toshihide Numata Book Prize in Buddhism)

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 仏教学センター

パシフィック・ブディスト・アカデミー

米国仏教伝道協会

②BDK被災保育施設支援金

東日本大震災発生以降、被災した地域の子ども達の心身の回復と豊かな育成を願い、公益社団法人日本仏教保育協会のご協力を得て、被災した保育施設を対象とした「BDK被災保育施設支援金」を設立した。

この支援金は3つの支援条件（A項：東日本大震災で施設や設備が被災した保育施設、B項：被災園児の受入れ、精神的・物理的支援を過去にした保育施設、C項：被災園児の受入れ、精神的・物理的支援を現在しているまたはこれから行うことが確実な保育施設とし、平成24年7月1日から8月31日まで申請を受け付け、同年9月19日に「BDK被災保育施設支援金審査委員会」を開催し、公正な審議の上、申請32件（A項22件、B項7件、C項3件）の全てに、総額920万円の支援金交付を決定、実施した。

3. 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

（1）啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

①仏教聖典を初歩英語で学ぶ会

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学ぶことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。ケネス田中教授（武蔵野大学）を講師として招き、日本語と簡単な英語を交えた講座として、毎月1回午後6時半より午後8時まで開講している。平成24年度は、前期（4月～10月）と後期（11月～3月）に分け、それぞれテーマを「忙しい人のための仏教～教え・歴史・日常生活～」と「日本の仏教宗派」とし講座を開講した。講座の受講登録者数は75名となっている。

②仏教聖典を生活に活かす会

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として不特定多数の一般の方を対象にホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。平成24年度はご講師に一島正真師、ケネス田中師を招き、12回開催し、のべ256名の参加があった。

③仏教聖典を経営に活かす会

仏教精神を学び事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、おもに事業経営者や社会人を対象に案内状や当財団のホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。平成24年度はご講師に木村清孝師、逸見道郎師を招き、8月を除く11回開催し、のべ206名の参加があった。また8月は夏季研修会として8月25日、26日の一泊二日で宮城県松島 瑞巖寺を訪ね、吉田道彦老大師のご説法を拝聴、さらには東日本大震災の状況を見聞きし、参加者23名は研鑽を積むとともに親睦を深めた。

④三田落語会

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣はじめ一般の方々に楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営している。

平成24年度は4月、6月、8月、10月、12月、2月の計6回開催し、のべ約1,800名の来場者があり、好評を得ている。

⑤実践布教研究会

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

平成24年度は、平成24年5月30日～6月1日の2泊3日間、「布教伝道」をテーマに伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「布教伝道 一隅を照らす ～最澄上人に学ぶ～」をテーマに掲げ、タイ国からの僧侶2名を含む、全国より宗派を超えて60名の僧侶が参集。天台宗比叡山延暦寺を会場に第42回実践布教研究会を開催した。比叡山延暦寺 執行 武 覚超先生「布教伝道～最澄上人のねがい」妙法院門跡門主 菅原信海先生「日本人のこころ」としてそれぞれ講話をいただき、天台座主 半田孝淳猥下より参加者に向け御言葉を頂戴した。3日目は午前1:00から藤波源信阿闍梨ご指導のもと回峯行を体験した。また「仏教再生への道 ～一般寺院に於ける収入基盤の崩壊と葬式仏教の行方～」をテーマに分科会が行われ、参加者同士の活発な意見交換があり、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

また、これまでの実践布教研究会に参加した有志の方々に呼びかけ、現場の第一線で活躍する志高き僧侶方が集い、研鑽を深めるとともに 互いの交流を通してさらなる布教伝道の糧にさせていただくことを願い、平成24年11月29日に「第1回実践布教研究会 参加者の集い」を開催した。初めに実践布教研究会立ち上げ当初より参加し、その研究会の成果を「布教の理論とアイデア集」に編纂した経験をもとに、「実践布教研究会の成り立ちと今後への期待 今寺院現場で何をすべきか」を講題に、中野東禅師に現在の仏教界、僧侶への提言を踏まえ、講演いただいた。参加した超宗派の僧侶ら37名は互いの活動などについて意見交換を交わした。

⑥BDKシンポジウムの開催

近年「直葬」に代表される仏教離れや自殺・貧困が社会問題化している現代において仏教の役割とその可能性が問われる中、各メディアでも注目されている、釈 徹宗師、阿 純章師、池口龍法師、松山大耕師、の若手僧侶をパネリストに迎え、平成24年9月3日、BDKシンポジウム「問われる仏教 応える仏教」を開催した。パネリストからは「仏教は求められている、人々のニーズにいかに向きあっていくか、僧侶の資質や対話能力が問われている」などの意見が出され、120名を超える来場者からも好評を得た。なおより多くの人に観てもらうため、同シンポジウムの動画を本協会ホームページで公開している。

4. 施設の貸与事業

公益目的事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）価格の半額で貸出し、当財団以外の団体等も含めた多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献する。平成24年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は57件であった。

II. 収益事業報告

1. 収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を行っている。

平成24年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は456件であった。

以 上